学ぶ・語る・出会う

社会人ボランティアの声

高岡　健二さん

受講科目名

前期：異文化交流から考える

後期：環境から科学を考える

国際交流の扉を拓く

高岡さんとのインタビューはまったりとした空間の中、コーヒーを飲みながら始まりました。高岡さんの iphone の待ち受けは生まれたばかりの赤ちゃん…初孫だそうで、写真を見せてくれる高岡さんの顔は優しいおじいちゃんそのものでした。

―授業を受けられた印象はどのようなものですか？

A.前期に受けた異文化交流が私にとって初めての徳島大学の授業だったのですが、いや～学生さんと受ける授業は新鮮で楽しかったですね。私は放送大学にも通っているのですが、ビデオを通して講義を受ける形式をとっているんです。なのでどうしても受け身の授業になってしまう。その点、様々な年代の人が集まりグループになって話し合う形式は私にたくさんの刺激を与えてくれます。おじいちゃんの話を聞くととても勉強になったり…私もおじいちゃんなんですけどね(笑)

―高岡さん、おじいちゃんになられたばっかりでしたね(笑)異文化交流で高岡さんとご一緒させて頂きましたが、学生へのアドバイスの仕方、主張と傾聴のバランスが絶妙なところを見ると、てっきり学生と授業を受けるのはベテランなのかと思っていました！

A.いえ、初めてでしたよ。学生へのアドバイスは、私自身が深く感じることをそのまま素直に話しているだけなんです。

―では、高岡さんから学生へアドバイスするとすれば？

A.外国へ行って、外の世界を覗いてみなさい。この一言につきると思います。日本は居心地がよすぎて…。外国に行ってみれば分かるんです。外から見る日本のよさが。もちろん外国のよさも分かってきますよ。日本と外国、両方のいいところを取り入れることができれば、より広い視点で物事を見ることができるようになります。

―高岡さんご自身は、どこか外国へ行かれたんですか？
A.ええ、中国に行きました。コンピューターメンテナンスの仕事をしていたのですが、その単身赴任で 1 年と 2 カ月ほど。

―日本と中国の文化を比べてみていかがですか？
A.驚きました。当時、中国の昼休憩は 2 時間もあったんです。日本では考えられない。私は、昼食を済ませてホテルへ 1 度帰って昼寝をしてから再び仕事へ行っていました。しかも定時の 5 時になるとさっさとみんな帰ることができるんです。残業する場合は一周間以上前から予約を入れてからにしなさいと会社の方に言われました。まぁ、お昼ごはんは大人数でお店へ行き、1 時間かけてゆっくりご飯を頂くことになっていたので、さっさと済ませて後はゆっくりしたい私にとっては辛い部分もありましたが(笑)とにかく日本との違いに驚きっぱなしでしたよ。

―と言うことは、日本ではかなり多忙な生活を送られていたんですか？
A.そうですねぇ。コンピューターメンテナンスの仕事は、私が高校を卒業して普及しだした仕事だったのですが、コンピューターそのものがまだ普及したてでした。なので、その頃のコンピューターは異常が起こりやすくて…夜中にお呼び出しなんて日常茶飯事でしたよ。

―もしかして休日も返上だったんですか！？
A.そもそもコンピューターメンテナンスって普段、人が使わない時間帯や休日じゃないとできないんです。だからお正月やゴールデンウィーク、夏休みなどが無くなるのは覚悟の上でした。

―では、今のように大学でお勉強なされるようになったきっかけは？
A.会社の制度で転身支援制度というものがありまして。2 年ほど休暇を頂けるんです。そこで、次の仕事に向けて資格をとったりする方もいらっしゃるんですが…私はもう働きたくはなくて(笑)それよりも、教養をつけたいと思ったんです。教養をつけると、人と話すときに深みが出てくるんですよね。多方向から相手にアプローチできると、相手のこともよく分かる。同じことを話していても知識がないと薄っぺらい交流しかできなくなってしまうんです。

―なるほど。知識は相手と交流する手段になっているんですね！そう考えると、現在の大学生が受けている一般教養ってものすごくありがたい制度のような…
A.そうですよ。こんなに恵まれている大学生はなかなかいないと思います。しかし、親がお金を出してくれるとなかなか自覚は出てこないでしょう。やっぱり日本は居心地がよす

ぎるんですね。どうか学生さんには短期でもパックツアーでもいい。外の世界を見て、新しい角度から日本や自分自身を見てほしいと思いますね。

―私は今、ここ日本ですら高岡さんと話してはっとさせられました(笑)

高岡さんはコンピューターメンテナンスのお仕事の関係で中国へ行き、帰国後は仕事内容がインターネットの普及へと変わったそうです。「時代によって仕事内容はいくらでも変わっていく。今の学生さんには専門以外でも幅広く知識を持つことで、これからの時代を柔軟に力強く生き抜いてほしい。」そうお話下さる高岡さんは、身近な学生さんを本当の孫のように思う優しいおじいちゃんのよう。しかし、その目には、今を柔軟に生き抜く力が輝きとして映し出されているのでした。きっと、ご自身が身を持って感じておられているからこそ、こちらにも力強く伝わってくるのでしょうね。
高岡さん、ありがとうございました！

2010 年 12 月 4 日（木）　学生支援室にて